

# 地域とつながる 福祉教育

## 申し込みの手引き



福祉教育は

他者理解（やさしい心）や  
つながりづくり（集団づくり）  
につながります

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会

# 吹田市社会福祉協議会が取り組む福祉教育について

吹田市社会福祉協議会(以下「吹田市社協」)は、吹田で暮らすすべての人が安心して暮らせるまちをめざし、地域住民やボランティア、福祉施設などのさまざまな機関や団体と共に、福祉のまちづくりをすすめています。

わたしたちが取り組む福祉教育は、

- ①人や地域、福祉への興味関心を高める
- ②人を思いやり、他者も自分も大切にすることを育む（自己肯定感を高める）
- ③子どもたちが自分自身にできることを考え、行動につなげる

をめざし、そのために何ができるかを一緒に考えます。そして、体験や講話、グループワークなどの授業を通じて、ふくし（ふだんの 暮らしの しあわせ）について考えるきっかけづくりをすすめています。

\*この取り組みは、吹田市より委託を受け実施する重層的支援体制整備事業の一環として取り組んでいます。



生きる力



## 1 知る・気づく

体験や講話を通して、障がいのある方や高齢者の暮らしや思いについて知り、理解を深めます。福祉についての理解を深めます。

主体的・対話的な学び



## 4. 取り組む

自分にできることをふだんの生活の中で見つけて、実際の取り組みにつなげていきます。また、学んだことを家族や友達に伝えていくことで福祉の輪が広がるきっかけをつくります。



## 2. ふれあう

同じ地域で暮らすボランティアや当事者の方々と交流し、つながるきっかけをつくります。地域で顔見知りの関係になるきっかけになります。

## 3. 考える(話し合う)

授業での学びを通じて、一人ひとりができることを考えます。小さな力が合わされば「誰もが安心して暮らせる住みよいまち」の実現につながることを理解します。

探究的な学習



# 主な実施内容

## 体験学習

### ・車いす

体育館や、玄関ホールなど、広いスペースを使用し、乗る側、押す側両方を体験します。



### ・アイマスク

多目的室など広めの部屋で説明したのち、校舎内の廊下や階段を使用し、アイマスクをつけて歩く側、手引きする側両方の体験をします。



### ・点字

各教室で点字の歴史や成り立ちを学び、実際に点字を打つ体験をします。

### ・手話コミュニケーション

各教室や多目的室などで手話や身振り手振りでのコミュニケーションを体験します。  
※聴覚障がい者のお話とセットになります。



### ・高齢者疑似体験

多目的室など広いスペースを使用し、疑似体験セットを装着した状態で日常動作を体験します。

## 当事者の講話

### ・身体障がい者のお話

日常生活の中で困ることや、バリアフリー、心のバリアフリーについてお話します。



### ・視覚障がい者のお話

日常生活の中で困ることや、点字や点字ブロック、音声出力など工夫して生活していることをお話します。(盲導犬ユーザーのお話も可能です。)



### ・聴覚障がい者のお話

日常生活の中で困ることや、身振りでコミュニケーションをとるなど工夫して生活していることをお話します。



## ワークショップ・その他

体験や講話と組み合わせ、「自分たちにできること」や「住みよい地域社会について」など、様々なテーマでワークショップを実施します。

その他、フィールドワークの実施等、ご希望に応じて検討します。まずはお気軽にご相談ください。

※これらの福祉教育は、地区福祉委員会やボランティアグループ、福祉事業所などのご協力のもとで実施します。

# 福祉教育の実践事例

## ① 体験と講話の組み合わせ

学校「多様な人が共生していることを知ってほしい」

→【アイマスク体験・視覚障がい者のお話】

対象：小学校 4年生 約 40名

内容：「アイマスク体験」：地区福祉委員会

「視覚障がい者の講話」：視覚障がい者（点訳ボランティアグループに所属）

### 【概要】

視覚障がいをテーマに、アイマスク体験と視覚障がい者の講話を行いました。アイマスク体験では、目が見えなくて困ることを体験するとともに、どのように声をかけたらいいかを考えました。講話では、実際に工夫してその人らしく生活していることを知り、障がいがあっても困っていることはそれぞれ違うこと、「自分たちにできること」を学びました。テーマに沿った体験と講話を組み合わせることで、多様な人と共に生きることについてより深く考える機会となりました。

## ② 地域とつながる福祉教育

学校「地域社会の問題を自分ごととして考え行動できる子になってほしい」

→【高齢者疑似体験/施設訪問（フィールドワーク）】

対象：小学校 4年生 約 70名

内容：「高齢者疑似体験」：ボランティアグループ

「高齢者とのふれあい体験」：近隣の高齢者施設

### 【概要】

高齢者の理解を深めるため、高齢者疑似体験を実施した後、学校より「体験だけで終わらせず、児童に地域や社会の問題を自分ごととして考えてほしい」との相談がありました。具体的には、地域の高齢福祉施設を訪問し、児童と高齢者が直接交流できるようにしたいという内容でした。学校では事前学習として地域課題や社会問題について考える機会を持ち、地域の中で「自分たちにできること」を班ごとに考察しました。学校と高齢福祉施設とのコーディネートを社協が行うことで、児童が高齢者と直接触れ合う機会を設け、地域共生を考える一助となりました。

### ③ 受援力を高めるワークショップ

学校「生きづらさを抱える若者の(※)受援力を育むきっかけにしたい」

※受援力…困ったときに他者を頼り、助けを受け取る力、人とつながる力

→【オリジナルボードゲームを使った授業】

対象：中学3年生 約190名

内容：様々な困りごとをサポートする支援機関や団体について、調べ学習を行った後、オリジナルのボードゲームを実施。その後、まとめのお話を行います。

#### 【概要】

「不登校やヤングケアラーなど若年層が複雑・多様な生きづらさを抱える中、身近にある相談機関や支援団体、気にかけてくれる大人がいることを知ってほしい」との学校からの相談を受け、多機関に声をかけプロジェクトチームを発足させました。中学生に関心を持ってもらえるよう、チームで話し合いながらオリジナルのボードゲームを作成しました。学校では事前学習にも取り組んでもらい、授業ではボードゲームの実施と振り返りの時間を持ちました。いつもと違う授業で楽しみながら学びました。

福祉教育は体験や講話  
だけではありません！

#### 様々なワークショップを一緒に検討します！

体験や当事者の講話などの福祉教育を通じて得た気づきや考えをもとに、

「自分たちの暮らす地域にはどんな場所があるかな？」「みんなが住みやすいまちって、どんなまちかな？」「自分たちにできることは何だろう？」「社会やまわりの大人に期待することは？」など、**仲間と対話**しながら具体的に考えていきます。そして、**自分の生活と結び付け、具体的な行動**につなげていくことをめざす授業に取り組みます。子どもたちに学んでほしい内容がありましたらまずは福祉教育担当までご相談ください。一緒に取り組んでいきましょう！

主体的な学び、対話的な学び、深い学びといったアクティブラーニングにもつながります。

主体的な学び

対話的な学び

深い学び



# 福祉教育実施までの流れ

## ①相談

学校の希望をもとに福祉教育の内容について学校と一緒に考えます。

(例) 障がい者理解を深めたい

→ ・車いす体験 ・点字体験 ・当事者の講話 など

身近な地域について考えたい

→ワークショップ、フィールドワーク など

## ②申し込み

右の QR コードまたは吹田市社協ホームページの申込フォームよりお申し込みいただくか、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたは FAX にてお申し込みください。



こちらの QR コードまたは  
吹田市社協 福祉教育

協力者の調整や事前打ち合わせがありますので

**実施希望日の 2 か月前までにお問い合わせいたします。**

## ③打ち合わせ

実施日の概ね 1~2 か月前に学校で打ち合わせを行います。

(目当ての確認、授業の進め方、使用する場所、準備物、ボランティアの人数確認など)

## ④実施

打ち合わせで確認した内容で授業を実施します。

## ⑤振り返り

福祉教育の授業後、ぜひ学校内で振り返りを行ってください。

(事後指導についての相談もお受けしています。)



可能であれば、感想や振り返りのワークシートのコピーを社協へご提供ください。  
今後の活動の参考にさせていただきます。

# 吹田市社会福祉協議会 福祉教育申込書

|  |   |     |     |     |
|--|---|-----|-----|-----|
| 学校名・担当者  |   |     |     |     |
| 学年・クラス数・人数   |   |     |     |     |
| 連絡先<br>(電話/FAX/メール)  | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">電話</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">FAX</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">メール</td> </tr> </table>  | 電話  | FAX | メール |
| 電話   | FAX   | メール |     |     |
| 学習のねらい<br>伝えたいこと   |   |     |     |     |
| 希望内容<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>希望する内容すべてに<br>✓を記入 | <p><b>【体験学習】</b></p> <input type="checkbox"/> 車いす体験<br><input type="checkbox"/> アイマスク体験<br><input type="checkbox"/> 点字体験<br><input type="checkbox"/> 手話コミュニケーション体験(聴覚障がい者のお話とセット)<br><input type="checkbox"/> 高齢者疑似体験<br><br><p><b>【当事者によるお話】</b></p> <input type="checkbox"/> 視覚障がい者のお話<br><input type="checkbox"/> 聴覚障がい者のお話<br><input type="checkbox"/> 身体障がい者のお話<br><br><p><b>【その他(こんな学習をしたい)】</b></p> <input type="checkbox"/> ワークショップ<br>ご希望のテーマや内容( ) )<br><input type="checkbox"/> その他( ) ) |     |     |     |
| 候補日  | 年 月 日 ( ) 時限目( ~ ) )<br><hr/> 年 月 日 ( ) 時限目( ~ ) )<br><hr/> ※1 時間目は不可<br>年 月 日 ( ) 時限目( ~ ) )   |     |     |     |

**【問い合わせ】**

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会  
 TEL:06-6339-1254 FAX:06-6170-5800  
 メール:suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp

※事務局記入欄

受付日 月 日  
 受付 No.



編集・発行

社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会

〒564-0072 吹田市出口町19-2

TEL：06-6339-1254

FAX：06-6170-5800

メール：[suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp](mailto:suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp)



吹田市社協 HP



インスタグラム

令和8年（2026年）4月発行